

授業科目名	教育実習(代替演習)		担当教員名	三上 聡子 石村 万寿美
必修/選択	必修(幼稚園教諭2種免許)		開講学年・学期	期間 期間(年間開講数 2講座)
科目区分			単位数	5単位
施行規則に定める科目区分等			授業方法/担当形態	演習 / 共同
			特記事項	
授業の到達目標	<p>(1)事前指導・事後指導に関する事項：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通じて、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</p> <p>②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に基づいて記録することができる。</p> <p>③教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</p> <p>④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>(3)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭：大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>②保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。</p> <p>③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。</p>			
授業の概要	幼稚園教育の意義と目標を理解する。2年次には、次のことに注意しながら演習として学ぶ。保育活動と主体的に取り組み、今までに学んだ専門的知識・技能を基礎に、導入・基礎実習で得た保育への実習内容を総合して、幼児の指導にあたることができる力を付けるものである。			
テキスト	「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著			
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社、「月刊 保育とカリキュラム」(ひかりのくに)			
成績評価の方法	授業でのグループワーク等における協力的な態度、模擬授業の評価、記録等の提出状況、実習の記録の記載内容で評価する。			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	イントロダクション…教育実習の意義、実習履修計画			
第2回	指導・援助の例「折り紙遊び」、自己点検 ※演習			
第3回	幼児理解と保護者への伝え方 - 基本 - ※グループワーク			
第4回	自由遊びから見える姿 ※映像使用 ※グループワーク			
第5回	基本的な生活習慣の形成と援助 ※映像使用 ※グループワーク			
第6回	幼児理解と指導・援助(絵本、紙芝居の読み聞かせ) ※模擬保育			
第7回	幼児理解と指導・援助(レクレーション-学年別、混合-) ※模擬保育			
第8回	幼児理解と指導・援助(表現遊び) ※模擬保育			
第9回	幼児理解と指導・援助(体育遊び) ※演習			
第10回	幼児理解と指導・援助(飼育・栽培) ※グループワーク ※PPT使用			
第11回	模擬保育(5歳児)			
第12回	模擬保育(4歳児)			
第13回	模擬保育(3歳児)			
第14回	保育の記録からケーススタディ(満3歳) ※映像使用			

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第15回	保育の記録からケーススタディ（混合保育） ※映像使用 まとめ	
定期試験	定期試験は実施しない	